

南昌伸

Masanobu Minami

デザイン工学

助教授

- 1983 東京藝術大学 大学院修了
BOX 展 (池袋西武)
- 1986 錬展 (広島そごう)
- 1988 FOR THE ONLY EARTH 展 (岡山文化センター)
- 1991 花のすみか大賞展 特別賞 (東京大丸、大阪、名古屋、福岡、札幌)
- 1994 個展 (ギャラリーやぶき 岡山)
- 1995 日本現代工芸美術展 (以後 '97-'03)
- 1997 個展 (ギャラリーやぶき 岡山)
朝日現代クラフト展 (東京・大阪以後 '98)
- 1999 個展 (工芸・ギャラリーひよし 埼玉)
- 2000 個展 (ギャラリーやぶき 岡山)
- 2001 日本現代工芸美術展 奨励賞
- 2002 個展 (工芸・ギャラリーひよし 埼玉)
科学研究費補助金による和時計の復元研究 (-2003)
- 2004 個展 (ギャラリーやぶき 岡山 '94, '97, 2000)
- 2005 広島市立大学・ニュルンベルク美術大学アートプロジェクト -KHORA-
個展 (工房 IKUKO 倉敷市)
- 現在 現代工芸美術家協会本会員
- 1994年4月着任

金属素材と生活工芸・素材研究を起点とした造形展開

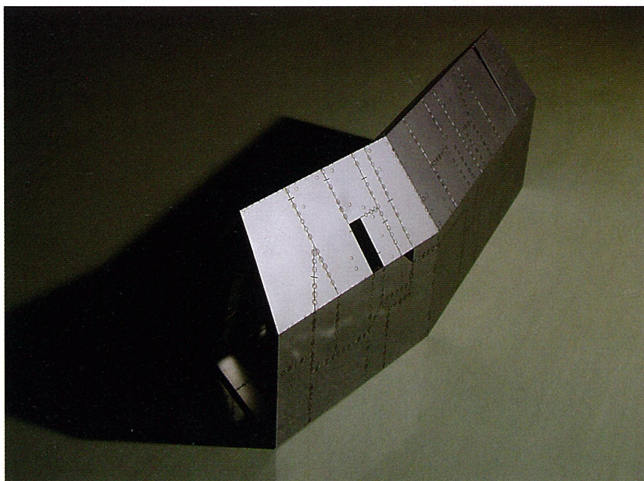
広島市立大学着任前から「金属素材と生活工芸」を主テーマとして個展を中心に発表してきた。着任後は1997年から概ね2年おきに個展を行ってきている。また同年には素材研究を起点とした金属造形の展開を継続的に進めていく目的で現代工芸美術展に出展している。

1999年には実生活で使われている日本の伝統的家屋を使った個展も加わり新たな視点、新たな課題が加わることとなり工芸と社会性についてより意識するきっかけとなっていく。

岡山在住の頃からを継続的に行なってきた「金属展」は、岡山県で活動するモノづくりを中心として、特に金属素材を扱うモノづくり達のネットワーク化を図る目的でスタートした展覧会である。2005年には20回目を迎え、現在は岡山に限らず中四国地方の参加者も増えネットワークも広がりを見せてきている。

その他、2002年から2003年にかけての科学研究費補助金(特定領域)による「江戸のモノづくり」(近世日本における和時計の素材、加工法、構造の復元的研究)への参加は、生活文化と密接に係わる具体的な道具の歴史、技術、復元といった普段の制作研究とは違った切り口の研究として個人的にも貴重な経験となった。

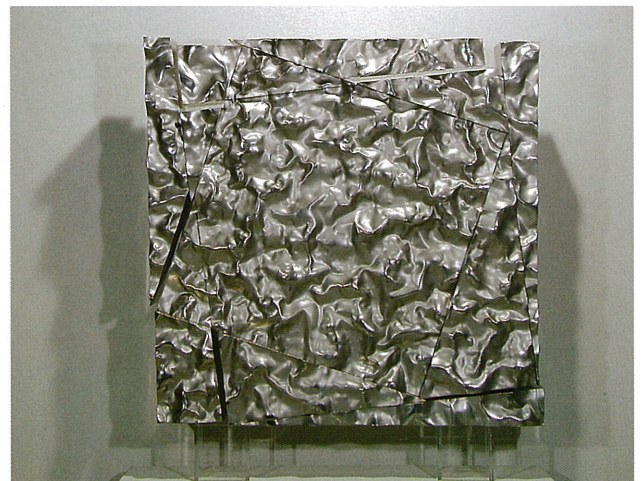
2005年は、ドイツのニュルンベルク美術大学の学生8名を受け入れて開催した「広島市立大学・ニュルンベルク美術大学アートプロジェクト -KHORA-」に参加した。大学周辺の地域を舞台に広島市立大学の参加者を含め合計19人の実験展示を行う。なお、このプロジェクトは2006年にはニュルンベルク美術大学に場所を移して引続きプロジェクトの後半プログラムを行なう予定である。



《opening》

2005

ステンレス・スチール
H28 × D18 × W76cm



《内在する四角》

2001

ステンレス・スチール
H100 × D15 × W100cm